

憲法守る共産党の前進を 木島元衆院議員を先頭に熱い訴え

8日、衆院が解散され、総選挙が行なわれることになりました。日本共産党は、解散、総選挙が確定的になった時点で直ちに街頭に出て、解散までして郵政民営化を押し通そうとする小泉首相を批判すると同時に、総選挙で暮らし・平和を守る日本共産党の躍進をと訴えました。

10日、上越市入りした木島日出夫元衆院議員（北陸・信越ブロック比例候補）は、「今日の政治のゆきづまりの背景には、自民党も民主党も財界から献金をもらい、庶民の大増税、大企業の減税を競い合っていることがある。両党は憲法改悪という点でも同じだ。いまこそ、国民の立場でがんばる確かな野党、日本共産党の前進を」と訴えました。

市議団も8日から、杉本、樋口、橋爪の3議員と上野事務局長が活動を本格化、「党組織、後援会が一丸となり、議員団が牽引車となって必ず前進、勝利を」と燃えています。



大増税反対、 上川谷の崩落現場で地質調査



【写真左】9日、吉川区上川谷の崩落現場を調査する人たち。

【写真中央】10日、大潟区で訴える木島日出夫元衆院議員。その右は旧大潟町議会議長の後藤紀一氏。

【写真右】街頭から訴える樋口市議と上野市議団事務局長。9日。

6月28日の梅雨前線豪雨で崩

落した吉川区上川谷の県道で9日、地

学団体研究会有志のみなさんが地質調査

と現地説明会を行いました。これには地元か

ら8人の人たちが参加しました。

崩落したのは大賀層と呼ばれる、約500万年前の

地層です。調査では、「大昔の『親崩れ』の一部が崩落

した『子崩れ』ではないか」「大島区と吉川区をまたがる断

層が近くにあるのでは」などの見解が示されました。調査はまだ

続きます。



崩落のすさまじさに地元の参加者は驚き、「すごい」を連発していました。

日本共産党上越市議団ニュース

18	2005年8月14日
連絡先	杉本敏宏 524-3787 (東本町5)
	樋口良子 544-6802 (中門前3)
	橋爪法一 548-3628 (吉川区代石)
事務局長	上野公悦 530-2203 (頸城区中柳町)

日本共産党の6区予定候補は 新進気鋭の武田勝利氏

注目の衆院選新潟県第6区の日本共産党予定候補として武田勝利氏(41歳)が決まりました。

武田氏は旧松代町出身で、1986年新潟大学理学部卒業。日本民主青年同盟新潟県委員長、日本共産党県書記長などを経て現在、党県議団事務局長。一緒に仕事をした人たちからは、「頭がきれて、他人の話を良く聞いてくれる」「温厚で親しみやすい」「論戦力がある人」などと評価されています。

市政の変化のなかで、 住民の期待にこたえる団活動へ (上)

党新潟・上越市議団長 杉本敏宏

この論文は、「議会と自治体」誌7月号に掲載されたものに、若干の補筆・訂正を加えたものです。

合併にともなう増員選挙で、吉川区(定数1)の橋爪法一議員が劇的な勝利を飾ってから6ヶ月余が過ぎました。上越市議会も、そして党議員団も変化の渦の真っ只中です。暗中模索の中でも、変化し前進し始めた上越市議員団の活動をお知らせしたいと思います。

衝撃が走った一人区での勝利

1月1日に13町村が上越市に編入合併されて、新上越市が発足し、その増員選挙が2月6日告示23日投票で行われました。「議案提案権のある4名の議員団」実現のために、旧上越市の樋口良子議員は頸城区へ、私は吉川区へ支援に入りました。

増員選挙では二人の当選をめざしましたが、万一当選できなかつた場合には、旧上越市の議員が全体をカバーしなければなりません。選挙支援で地域を回っていたことで、13町村の住民要求の背景が解かります。それが議会活動を進



コマクサ(7月31日 燕岳にて杉本敏宏写す)

める上で大きなプラスになっていると感じています。

選挙の結果は、定数1の吉川区では当選しましたが、定数2の頸城区では次点で当選できず、「議案提案権」は実現できませんでした。しかしこの選挙結果に対する反応・影響はすごいものでした。橋爪議員のところにもメールや電話などが殺到しただけではありません。上越地域の政界にも大きな衝撃が走ったのです。

定数1の吉川区で当選した橋爪議員は、吉川区ではただ一人の公職者ですから、以前の町長・助役と議員が担っていた全てが、橋爪議員の肩にかかってくるといっても過言ではありません。

橋爪議員の当選で上越市議員団は3名になりました。議員団長は引き続き私がつとめ、橋爪議員には幹事長を、事務局長に頸城区の上野公悦前村議から就任してもらい、樋口良子議員と4名で構成しています。毎週月曜日の午前中に議会の議員団控室で団会議を開いていますが、4人ですと、色々な角度から様々な意見やアイデアが出てきます。これも議員団としての大きな変化の一つです。

だだっ広くなった新上越市

旧上越市は、新潟県の南西部に位置する新潟県内第3の都市でした。それが周辺の13町村を吸収して、人口21万人余となりましたが、面積は約972平方キロメートル、「佐渡島より大きく、東京都の半分」もあるだだっ広いまちになりました。過疎法適用町村を編入したため、過疎法の「みなし過疎地域」に該当することになり、「人口21万の過疎地域」とマスコミでも報道されました。

私たちは、「合併で旧上越市の人口が膨張したわけではない。市町村の垣根が取り払われただけで、町村に以前から住んでいた人たちは今もそこで生活している。この人たちが以前と変わらぬ生活ができるかどうか」という立場で、この合併を見てきました。このことが合併した後の行政と議会に鋭く問われていると思います。

党議員団への期待が広がり、活動範囲・分野が飛躍的に広がったことがこの間の特徴ですが、私たちの頭の中も体制もそれに対応しきれないのが現状です。